

下前記の操作に準じて檢量曲線を作製する。

8. 使用する試薬は全操作過程についての空實驗を平行に行つて補正することが必要である。

9. 操作中の使用器具は常に鹽酸で清淨にしたものをを用うる。必要あらば試料もまたエーテル洗滌を行い、秤量に際しては直接手指を觸れてはいけない。

10. 本分析操作の所要時間は大略次表の如くである。

操 作	所 要 時 間 (分)
分 化 (過 酸 化 水 素)	5~13
冷 却	2~3
中 和	1
稀 釋, 遠 心 分 離	1
分 液, ネスラー試薬添加	13
發 色, 放 置, 測 定 計 算	2~3
	3~5
計	27~39

文 献

- 19 委 1727, 廣田委員, 扶桑金屬工業株式會社(細田, 桐山, 成川)
 19 委 1790, 廣田委員, 扶桑金屬工業株式會社(細田, 桐山, 成川)
 19 委 1792, 廣田委員, 扶桑金屬工業株式會社(細田, 桐山, 成川)
 19 委—2066, 笹部委員, 日本鋼管株式會社(高野, 井樋田, 後藤)
 19 委—2235, 菊池委員, 日本鋼管株式會社(高野, 井樋田, 後藤)

— 昭和 27 年 3 月 號 論 說 豫 告 —

- | | |
|---|------------------|
| 1. コークス爐操業の一考案..... | { 長谷場七郎
中原 實 |
| 2. 爐壁の溫度傳導度を實測する一方法..... | 中村 元和 |
| 3. CaO-SiO ₂ -FeO 系 CaO-SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 熔融スラッグ構成分
の活量計算..... | 松下 幸雄 |
| 4. 特殊鑄鋼の研究 (X) | 三ヶ島秀雄 |
| 5. 鑄鐵製電氣抵抗體の研究..... | { 岡本 正三
岡田 厚正 |
| 6. ガスタービン翼用耐熱鋼に関する研究 (II) | 出口喜勇爾 |